



「エンゲキ・カフェー声に出して読む演劇体験一」(長久手市文化の家 食文化室)より



「げきじょうたんけんツアー」より 撮影:羽鳥直志

## 2018年度 愛知県芸術劇場 普及啓発事業 報告書

2018年度 愛知県芸術劇場 普及啓発事業報告書

発行:愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜一丁目13番2号


TEL:052-971-5609

URL:<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

印刷:株式会社日総研印刷

発行日:2019年3月

主催:愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  文化庁

愛知県芸術劇場は年間を通じてさまざまな普及啓発事業を実施しています。

2018年度も引き続き、舞台芸術に初めて触れる方から日常的に親しまれている方まで、趣味・関心に合わせてご参加いただける事業を開催し、拡充を図りました。はじめての方が親しんでいただける舞台芸術の導入口として「カフェトーク」や「教えて、ティー・チャー」、さらに一歩踏み込んで舞台芸術への関心を高めていただける「ダンス・スコレ」、「鑑賞&レビュー講座」など20以上の普及啓発事業を開催したことによって、劇場や鑑賞公演に更なるご興味を持っていただけたと感じております。

また、多くの方が舞台芸術に触れる機会の充実を図るためにユニバーサルやダイバーシティなどの裾野拡大に繋がる取り組みにも注力してまいりました。

今後も当劇場の事業と取り組みを通じて、より舞台芸術に親しみをもちたいと願っています。



愛知県芸術劇場  
館長 丹羽 康雄

連携プロジェクトとは…

愛知県芸術劇場では、国内の劇場と連携し、共同制作によるグランドオペラの制作や、当劇場プロデュースによるダンスや演劇作品の国内ツアーを行なっています。また、県内の劇場と連携し、海外から招へいたカンパニーの県内市町村ツアー、新任の劇場職員を対象としたセミナーを実施するなど、圏域全体の芸術文化の振興を図っています。そのほか、当劇場が位置する名古屋の久屋(栄北)エリアの活性化を図るために、近隣の商業施設等と月1回の会議への参加やアートの力で賑わいを創出するミニフェスティバル「久屋ぐるっとアート」を開催するなど、情報交換や事業連携を行なっています。

Contents

近隣施設との新しい取り組み  
→ P03

児童・学生向けプログラム  
→ P04・05

一般向けプログラム  
→ P06・07

より深く学びたい一般向けプログラム  
→ P08~11

乳幼児と保護者向けプログラム  
→ P12

ユニバーサルへの取り組み  
→ P13

ダイバーシティへの取り組み  
→ P14

舞台芸術人材養成に関わるプログラム  
→ P15

2019年度ラインナップ  
→ P15

誰もが生涯にわたって芸術文化を分かち合えるように――



芸術文化は、赤ちゃんから高齢の方まで、いつでも誰でも享受することができます。愛知県芸術劇場では、さまざまな普及啓発事業を展開。人々の知的好奇心に寄り添い、興味や能力などの対象者別に系統立てて構成し、障がいのある方や、日本語を母語としない方にも参加いただけるようにプログラムやサービスを提供しています。また、ミクロ/マクロ双方の視点に立って文化振興に貢献。劇場周辺の身近な環境から、愛知県、東海地方、全国、世界にまで目を向け、芸術文化が多くの方に親しまれるよう努めています。



アートへの興味・関心が初期段階の人を対象としたプログラムは、裾野広く、多種多彩に実施してきた。特に2018年度は新たに「久屋ぐるっとアート」の開催が実現。これは愛知県芸術劇場のある久屋(栄北)エリアの団体が、公立・民間などの枠組みを越えて連携したプロジェクトだ。美術や舞台芸術、音楽、映像、さらに食文化もつなぎ、老若男女が多様な価値観を体感できる3日間となった。



久屋ぐるっとアート

日程:2018年11月2日~4日 [3日間]

会場:久屋エリア一帯

参加団体:愛知芸術文化センター(愛知県美術館・愛知県芸術劇場・愛知県図書館) / 愛知県吹奏楽連盟 / あいちトリエンナーレ実行委員会 / アリانس・フランセーズ愛知フランス協会 / NHK名古屋放送局 / NHK名古屋放送センタービル / オアシス21 / カワイ名古屋 / jazz inn LOVELY / セントラル画材 / セントラルパーク / なごやウイメンズ・クラシック / 名古屋市芸術創造センター / 名古屋テレビ塔 / 日本キリスト教団名古屋中央協会 / パンマルシェ実行委員会 / 久屋大通発展会 / プロッサ / 森村記念館 / やっとかめ文化祭実行委員会



あそびシアター by acc (愛知県児童総合センター)

「ウソのモリ」  
「はかる?! ~これくらいってどれくらい~」

世界には気持ちや美しさのように道具を使っではかれないものがある。あそびシアターでは「はかれるもの/はかれないもの」どちらも対象としながら、子ども一人ひとりの「ものさし」を育んだ。また、オアシス21ではデジタルカメラ撮影で作った自分の「ミニチュア」をさらに撮影する「ウソのモリ」も同時開催。

会場:愛知芸術文化センター アートスペース E・F / オアシス21

企画実施:愛知県児童総合センター / チーム〇△□



イスラエル・ガルバンとフラメンコを踊ろう!

オアシス21の「銀河の広場」にフラメンコ界の革命児として世界中を魅了するイスラエル・ガルバンが登場! 経験を問わず、通り掛かった人さえ巻き込んでフラメンコの基本的な振付をレクチャー。「間違えた!」「楽しい~」など、参加者たちの声にも熱気があふれた。

会場:オアシス21 銀河の広場

講師:イスラエル・ガルバン



右脳中島オーボラの本妻 撮影:羽鳥直志

フォーラムシアター2018

愛知芸術文化センターの2階と地下2階にあるフリー空間「フォーラム」で、当地の舞台芸術家たちが無料公演を開催。至学館大学創作ダンス部は、国内外で活躍する富士山アネットとコラボレーションし、現代のコミュニケーションツールを取り込み、観客も巻き込んだパフォーマンスで盛り上げた。

会場:愛知芸術文化センター フォーラムI-II

参加団体:富士山アネット×至学館大学創作ダンス部 / 右脳中島オーボラの本妻 / 倉知可英×加藤おりは / はねるつみき



富士山アネット×至学館大学創作ダンス部 撮影:羽鳥直志



「Las guapas」今枝友加フラメンコライブ 撮影:羽鳥直志



アリانس・フランセーズ財団主催 国際写真コンクール受賞作品展



「げきじょうたんけんツアー」より 撮影:羽鳥直志

**学**校で習う音楽や美術、ダンスなどは芸術文化への入り口となるが、さらに興味が膨らんだ子どもたちには、さまざまなプログラムを用意した。劇場そのものに親しんでもらう企画があれば、実際に動いて創造する企画、もちろん上質な舞台を観る企画も実施。真っさらで柔軟な子どもたちは、学校では体験できない世界に触れ、一流アーティストの息吹を間近で感じたことで、驚きや喜びの表情を見せた。

## げきじょうたんけんツアー

夏休み期間恒例「ファミリー・プログラム」の中で毎年好評の「げきじょうたんけんツアー」では、劇場スタッフ扮する隊長・副隊長の案内のもと愛知県芸術劇場小ホール裏側の子どもたちが見学した。舞台袖や楽屋など、公演鑑賞では見ることのできない場所に潜入して、気分はまさに探検。最後に認定証が渡され、子どもたちは劇場の楽しい思い出を持ち帰った。

日程:2018年8月1日[計5回]  
会場:愛知県芸術劇場小ホール



## オリジナルなダンスをつくろう!

ダンスシーンはもちろん演劇やテレビ業界でも活躍するカンパニー「プロジェクト大山」を進行役に、小学4年生から6年生までを対象としたワークショップ。彼女たちによって自由な発想や動きを引き出された子どもたちは、2日間にわたりオリジナルダンスの創作に盛り上がった。

日程:2018年8月17日・18日  
会場:愛知芸術文化センター アートスペースA  
ファシリテーター:プロジェクト大山



## えんげきdeコミュニケーション!

振付家・ダンサーの振子びじんと佐々木文美(舞台美術家)、西尾佳織(劇作家)がチームを組んで、2日間で1セットの演劇ワークショップを開催。小学4年生から6年生の子どもと保護者が参加した。参加者はグループに分かれ、短い物語や舞台の見せ方などを相談。最後に発表を行なって感想も述べ合い、「共に創る」面白さを実感した。

日程:2018年8月23日~25日[3日間・計4回]  
会場:愛知芸術文化センター アートスペースA  
ファシリテーター:振子びじん/佐々木文美/西尾佳織



## 劇場と子ども7万人プロジェクト

愛知県の小中学生1学年あたりの人数=約7万人を目標に、愛知県芸術劇場では、他の公立劇場とも連携しながら「劇場と子ども7万人プロジェクト」を実施。2015年度から地域の子どもたちを主催公演に招待している。2018年度の作品は、演劇『寿歌』、ダンスとラップのコラボレーション『ありか』。子どもたちは劇場に入った瞬間から非日常の世界に興奮。普段味わうことのないユニークな台詞や舞台美術、身体や発声の優れたテクニックに驚嘆した。また、『寿歌』では終演後に俳優が衣裳のままお見送りを行ない、『ありか』では出演者のアフタートークを開催。それらの余韻は未来の豊かさにつながるはずだ。

**愛知県芸術劇場・SPAC (静岡県舞台芸術センター) 共同企画『寿歌』**  
日程:2018年6月13日~15日  
会場:パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)花しょうぶホール  
日程:2018年6月21日・22日  
会場:小牧市市民会館

**島地保武×環ROY『ありか』**  
日程:2018年6月26日・28日・29日  
会場:愛知県芸術劇場小ホール

## 高校生ゲネプロ招待

愛知県芸術劇場では、主に高校生を対象としたゲネプロ(本番同様の最終リハーサル)公開を行なっている。今年度の対象は、劇団「地点」による演劇『忘れる日本人』、当劇場の主催する戯曲賞の受賞公演『シティⅢ』、オペラ『バ스티アンとバスティエンヌ』の3作品。学生たちは舞台を鑑賞するだけでなく、終演後の質疑応答で創作過程や演出意図を学んだり、装置などを見学したり、舞台芸術の全体像を体感。劇場未体験の生徒も、部活動などで舞台に携わる生徒も、10代の鋭い感性をもって現場を肌で感じ、刺激を受けていた。

**地点『忘れる日本人』**  
日程:2018年7月12日

**第17回AAF戯曲賞受賞記念公演『シティⅢ』**  
日程:2018年10月25日

**愛知県芸術劇場プロデュースモーツァルト作曲オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』**  
日程:2018年11月15日  
会場:愛知県芸術劇場小ホール



「忘れる日本人」ゲネプロ後、舞台装置を見学し、シーンを再現する生徒たち



「ありか」公演の様子 撮影:羽鳥直志

「寿歌」終演後の様子





芸術文化の造詣を深めるのに遅いなんてことはない。興味を持った時、興味を持ったことから学べばいい。愛知県芸術劇場では、大人一般向けにも教養プログラムを実施してきた。聴く講座があれば、実践型のワークショップもあり、内容は多彩。また、仕事帰りに立ち寄れる時間帯にも企画したことで、ライフスタイルに合わせて参加する人たちの姿が数多く見られた。

## 丸善ゼミナール 『バ스티アンとバスティエヌ』 担当者が語るオペラの魅力と制作現場

丸善名古屋本店が主催する「丸善ゼミナール」とのコラボレーションで、オペラの講座を実施。愛知県芸術劇場シニアプロデューサーの水野学が講師を務め、オペラの魅力や『バスティアンとバスティエヌ』の具体的な制作話を紹介。知的好奇心の旺盛な人が集まる書店と劇場とのタッグは、win-winの成果を上げた。

日程:2018年10月5日  
会場:丸善 名古屋本店

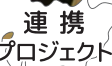


## エンゲキ・カフェ 一声に出して読む演劇体験

劇場は「敷居が高い」、演劇は「難しそう」などのイメージが付き物。そこで、お茶を飲みながら気軽に楽しむ「エンゲキ・カフェ」を開催。10月の『シティⅢ』公演を前に、演出の振子びじんと出演者が、長久手市と西尾市で演劇のワークショップを行なった。参加者は戯曲を声に出して実際に読むことを体験。作品や言葉などについて、さまざまな感想が飛び交った。

日程:2018年9月7日  
会場:長久手市文化の家 食文化室

日程:2018年9月8日  
会場:西尾市一色町公民館横 カフェいろのわ  
ナビゲーター:振子びじん/西尾佳織/  
佐久間 新/松井壮大



## 愛知県芸術劇場 カフェトーク ゲスト×観客で考える舞台の楽しみ方

専門家と観客が飲み物片手に集い、舞台の楽しみ方を考える「カフェトーク」。今年度は批評家の佐々木敦、ファッションデザイナーの廣川玉枝、建築家の山岸綾、舞台映像デザイナーの山田晋平、美術家の金氏徹平、建築家の田根剛が登場。舞台芸術の魅力について、和やかに語り合った。

日程:2018年9月6日・13日・27日・12月19日・2019年1月23日・2月21日〔計6回〕  
ゲスト:佐々木敦/廣川玉枝/山岸 綾/  
山田晋平/金氏徹平/田根 剛  
会場:喫茶アルス(愛知県芸術文化センター地下2階 アートプラザ内)



## 愛知県立芸術大学×愛知県芸術劇場 『バスティアンとバスティエヌ』を楽しむ

オペラにおけるオーケストラに焦点を当てた講座を開催。愛知県立芸術大学で教鞭を執るフルート奏者・丹下聡子を講師に、同じく村田四郎を賛助出演に迎え、『フィガロの結婚』『魔笛』のアリアなどを紹介。聴講者も大いに楽しんだ。

日程:2018年10月13日  
会場:愛知県芸術文化センター アートスペースA  
講師:丹下聡子  
賛助出演:村田四郎



## 教えて、ティー・チャー フラメンコ入門

気鋭イスラエル・ガルバンの来日公演に先駆けて、フラメンコ舞踊家・歌手の今枝友加が基礎知識や本番の楽しみ方をレクチャー。お茶とケーキを食べながら、色鮮やかな衣装や小道具などが紹介され、一同教養を深めた。

日程:2018年9月9日  
会場:愛知県芸術文化センター アートスペースA  
講師:今枝友加



## シアターミーティング 『シティⅢ』を語ろう

第17回AAF戯曲賞受賞記念公演『シティⅢ』終演後、会場ロビーでは観たばかりの舞台について語り合う「シアターミーティング」を実施。率直な感想や意見、疑問を交換することで、参加者それぞれの作品理解が深まった。

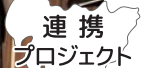
日程:2018年10月27日  
会場:愛知県芸術劇場小ホール ホワイエ



## 身体表現者のためのワークショップ

ダンスやアートの新たな発信地として期待が高まる民間施設「黄金4422BLDG.」との連携で、身体表現者のためのワークショップを開いた。講師の平原慎太郎は、ダンスだけでなく演劇や美術でも活躍。その広い視野にも参加者は触発された。

日程:2019年1月9日  
会場:黄金4422BLDG.  
講師:平原慎太郎/OrganWorks



## 愛知県芸術劇場×長久手市文化の家 大山大輔のオペラへようこそ!! ~オペラに行く前に聞いておきたい話~

バリトン歌手としてオペラのみならずミュージカルでも活躍し、舞台の台本や構成にも精力的な大山大輔がトークショーを開催。オペラの裏も表も知り尽くした才人が自身の経験談も織り交ぜながら、誰にでもわかりやすい鑑賞の極意を伝授した。

日程:2018年9月16日  
会場:長久手市文化の家 光のホール  
講師:大山大輔



## オルガン見学会

毎年恒例のコンサート「クリスマスはオルガンだ!」終演後には、オルガンを間近に見ることができる見学会を実施。愛知県芸術劇場が誇る国内最大級のパイプオルガンを前に、大人も童心に返ったような眼差しで細部まで観察していた。

日程:2018年12月22日  
会場:愛知県芸術劇場コンサートホール

## 「聲明 鎮魂の祈り」コンサート関連講座 日本の声をめぐって

真言宗と天台宗の僧侶による声楽「聲明(しょうみょう)」公演に合わせた関連講座は、幅広い聴講者で賑わった。聲明の基礎はもちろん、雅楽の「歌もの」や宮中報道でよく見る「歌会始」など、声の表現の歴史を通じて日本を再発見することにもなった。

①雅楽・歌もの  
日程:2019年1月12日  
②聲明1・聲明の基礎知識  
日程:2019年1月27日  
③聲明2・新作聲明の軌跡  
日程:2019年2月2日  
④和歌を歌う~歌会始  
日程:2019年2月23日  
会場:愛知県芸術文化センター アートスペースA  
講師:豊 英秋/末廣正栄/小路耕徳/  
田村博巳/園池公毅



撮影:中川幸作

日程:2019年2月24日  
会場:愛知県芸術劇場コンサートホール

さらに踏み込んで舞台芸術を学びたい人、あるいは何か実践してみたい人に向けては、より高度なプログラムも実施した。演劇の戯曲を集中的に取り上げた企画や、鑑賞とレビューの執筆をセットにした講座など、深く具体的になったプログラムに多くの人が集まった。中でもダンスの学校と銘を打った「ダンス・スコール」では、2日間・各日3時間超のハイレベルな講座を開催。ダンサー、評論家、プロデューサーの3人が講師を務め、この分野を多角的に紹介した。今は聴講する立場の人も、いつか書く人、やる人になる可能性もある。専門家の思考や言葉に触れ、会場には参加者の熱い空気が充満した。



## ダンス・スコール 「ダンスと音楽のコラボレーション」

1998年に「study of live works発条ト(ばねと)」を設立以来、ソロでもダンサー・振付家として国内外で活躍してきた白井剛。彼は多彩なアーティストとのコラボレーションが多く、リアルな創作現場の経験を語った。なお、今回は愛知県芸術劇場シニアプロデューサーの唐津絵理も共に講師を務め、前半は「愛知県芸術劇場のダンス事業」と題して2019年度の公演をいち早く解説。後半の「ダンスと音楽の関係」では、当劇場で公演された白井とアルディッティ弦楽四重奏楽団とのコラボレーションなど、過去の事例も紹介された。さらに白井はiPodから音楽を流してデモンストレーションを披露し、会場を沸かす一方、紙の上で空間をイメージする様子を投影。聴講者も做って、動線など考える疑似体験をした。

日程:2019年3月23日  
会場:愛知県芸術劇場小ホール  
講師:白井 剛/唐津絵理



## ダンス・スコール 「バレエとダンスの歴史」

2日目は、舞踊評論家の海野敏を講師に迎え、休憩含む4時間超えの一大講義。東洋大学社会学部教授でもある海野は、ダンスの3DCG振付シミュレーションソフトを開発中で、その動向にも注目が集まっている。今回は、いまや日本でも浸透したコンテンポラリー・ダンスが世界的にはどんな潮流の中で誕生してきたのか、バレエの歴史を踏まえて紹介。前半では「バレエの歴史(誕生から現在まで)」、後半では「モダンダンスからコンテンポラリー・ダンスへ(米国を含め、欧州を中心に)」と題して、バレエ～モダンダンス～コンテンポラリー・ダンスの流れを一気に解説した。聴講者は、それぞれのジャンルの関係、歴史的に重なる時期などが見えてきたことで、ダンスへの理解が高まり、充実感に満たされた。

日程:2019年3月24日  
会場:愛知県芸術劇場小ホール  
講師:海野 敏



登壇者左から司会の山本麦子(愛知県芸術劇場プロデューサー)、松原俊太郎、額田大志、カゲヤマ气象台(ビデオ通話による参加)、山内 晶、谷 竜一

## AAF戯曲賞・受賞作家座談会 「作家にとって上演とは?」～作家が語る・作家と語る～

受賞作の上演を前提としている「AAF戯曲賞」は、審査員が演出家中心に一新されてから4人の大賞受賞者が生まれている。彼らが一堂に会し、「上演」とは何かを語り合った。当日は第15回AAF戯曲賞受賞の松原俊太郎、同じく第16回受賞の額田大志(ヌトミック/東京塩麹)、第18回受賞の山内晶(キリグス/歌舞伎女子大学)に加え、京都芸術センターのアートコーディネーターの谷竜一が登壇。来場できなかった第17回受賞のカゲヤマ气象台(円盤に乗る派)は、ビデオ通話での参加となった。フリーの劇作家である松原、演劇ユニットとバンドを率いて劇作・作曲を自在に

こなす額田、毎回プロジェクトという形で公演を立ち上げるカゲヤマ、ふたつの演劇集団に属する山内。受賞者4人の演劇との関わり方は非常に多様で、考え方の違いも聴講者にとって興味深い話の連続だった。さらに続く第2部の「受賞戯曲を読もう/話そう」では、受賞作品を会場の参加者と共に読み、味わった。

日程:2019年3月21日  
会場:愛知県芸術劇場小ホール  
登壇作家:松原俊太郎/額田大志/カゲヤマ气象台/山内 晶  
ゲスト:谷 竜一



## 第18回AAF戯曲賞 最終審査会関連企画 「戯曲を読むワーク」「トーク」



「戯曲を読むワーク」の様子



第18回AAF戯曲賞最終審査会の関連で、戯曲を読む企画、戯曲について話し合う企画などが2日間で連続実施された。篠田千明、羊屋白玉、鳴海康平がナビゲーターやゲストで参加。今年度から審査員となった現代美術家・演出家のやなぎみわもロビートークを開いた。さらに受賞作『シティⅢ』を演出したダンサー・振付家の振子びじん、批評家の佐々木敦も登場。ひとくちに戯曲と言えど、視点によっていろんな色彩を帯びることが少しずつ理解、共有できた。

「戯曲を読むワーク1」  
日程:2019年1月5日  
ナビゲーター:篠田千明

「戯曲を読むワーク2」  
日程:2019年1月5日  
ナビゲーター:篠田千明/羊屋白玉

「トーク1 戯曲とは何か?」  
—リサーチから生まれる言葉とは—  
日程:2019年1月5日  
ナビゲーター:篠田千明/羊屋白玉/丸岡ひろみ

「トーク2 戯曲とは何か?」  
—戯曲と上演のアーカイブ—  
日程:2019年1月6日  
ゲスト:鳴海康平/振子びじん/佐々木 敦

「ロビートーク with やなぎみわ」  
日程:2019年1月6日  
出演:やなぎみわ  
会場:愛知県芸術劇場小ホール



## 鑑賞&レビュー講座

### 「観て、話して、書いてみる」

#### 舞台鑑賞者のためのコミュニケーター養成に向けて

舞台芸術を観た後、感想や意見を誰かに伝えたいことは多い。この講座はライターや批評家から執筆プロセス、極意などを学び、質の高い文章で広く発信できる人材を育てるためのもの。参加には対象作品を鑑賞していることが条件となる。講師は、劇団「かもめマシーン」の主宰でフリーライターでもある萩原雄太に始まり、作家・

舞踊評論家の乗越たかお、HEADZを主宰する批評家の佐々木敦、舞踊評論家の山野博大、取材・執筆・編集を一手に担う島貴泰介が務めた。参加者たちは、グループに分かれての討議や作業などを行ない、客観的な視点や伝えるための言葉を学ぶことで、レビューを再認識することができた。

**第1回 対象公演:地点『忘れる日本人』**

日程:2018年7月14日

講師:萩原雄太

**第2回 対象公演:ダンス・セレクション**

日程:2018年10月6日・8日

講師:乗越たかお

**第3回 対象公演:第17回AAF戯曲賞受賞記念公演『シティⅢ』**

日程:2018年10月28日

講師:佐々木敦

**第4回 対象公演:opto『optofile\_touch』**

日程:2018年12月16日

講師:山野博大

**第5回 対象公演:Organ Works**

『聖獣~live with a sun~』

日程:2019年1月13日

講師:山野博大

**第6回 対象公演:サウンドパフォーマンス**

プラットフォーム2019

日程:2019年2月9日・11日

講師:島貴泰介

会場:ピデオールム(愛知芸術文化センター 地下2階 アートプラザ内)



## 現代・音楽リレーレクチャー

現代の音楽の中には「難解」と言われがちな作品群もある。それら一般的に耳慣れない音楽には、どんな創作意図や実験精神がこめられているのか、最前線にいるミュージシャンや研究者がリレー形式で解説した。デモンストレーションもあって、参加者は体感しながら理解。なお、第2回は民間のイベントスペース「ハルル」で開催され、第3回は愛知県美術館と共催され、各回のテーマごとに雰囲気や趣向がうまく生きた。

「ハリー・パーチの楽器と音楽~復元されたパーチのギターが奏でる純正律音楽~」

日程:2018年12月6日

会場:ピデオールム(愛知芸術文化センター 地下2階 アートプラザ内)

講師:クリス・レニエ/柿沼敏江

「“サウンドパフォーマンス”について ~サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2019に向けて」

日程:2019年1月24日

会場:ハルル

講師:電力音楽(木下正道+多井智紀+池田拓実)



「音から作る映画『サロメの娘/アコースモニウム』について」

日程:2019年2月3日

会場:愛知芸術文化センター アートスペースA 共催:愛知県美術館

【第1部】映画『ホットtentトエブロン・スケッチ』

トークゲスト:七里 圭/越後谷卓司

【第2部】アコースモニウムと『サロメの娘』について

講師:楢垣智也/七里 圭

「マウリシオ・カーゲル『ACUSTICA』

創造される楽器と音響空間」

日程:2019年3月19日

会場:愛知県芸術劇場小ホール

講師:山田 岳



マヌエル・ルグリ

## ダンス・コンサート『Stars in Blue』 マヌエル・ルグリトークイベント

パリ・オペラ座のトップ・エトワールを務め、現在はウィーン国立バレエ団芸術監督のマヌエル・ルグリとハンブルク・バレエ団プリンシパルのシルヴィア・アッツォーニが貴重なトークイベントを開催。ルグリたちの経験談やバレエへの美学・哲学は、ビギナーでも魅了されるものがあった。

日程:2019年3月10日

会場:愛知芸術文化センター アートスペースA

出演:マヌエル・ルグリ/シルヴィア・アッツォーニ



額田大志

## ストミック「ワナビーエンド」公演関連企画

### ワークショップ 「音から演劇を立ち上げる」

演劇カンパニー「ストミック」とバンド「東京塩麴」を率いて、その境界を自在に行き来する額田大志が登場。名古屋・矢場町のオルタナティブなアートスペース「Spazio Rita」にて音楽、演劇などを横断するワークショップを実施した。

©コムラマイ/タカラマハヤ

日程:2018年10月29日・30日

会場:Spazio Rita

講師:額田大志





**愛** 知県芸術劇場では、この地域に暮らす誰もが芸術文化を享受できて、共に生きる社会を実感できるようなプログラムの開発や提供にも力を注いでいる。年齢や国籍、生活環境、健康状態、あるいは出産などライフスタイルの変化によって、劇場やアートから遠のいてしまうことが少なくない。それを乗り越える内容、方法を工夫することで、今年度もたくさんの人々と芸術文化を共有することができた。また、機会が限定される講座やワークショップだけでなく、障がいのある人などのために年間通し



て実践しているサービスも多数。すべての人に開かれた劇場を目指している。



## 愛知県芸術劇場×長久手市文化の家 0歳からの親子コンサート 「音を楽しむ～からだで感じるヴァイオリンとヴィオラの音色～」

作曲家・今井智景の企画構成・司会進行のもと、江頭摩耶がヴァイオリンとヴィオラでモーツァルト「きらきら星変奏曲」などを演奏。子どもたちは音楽に合わせて自由に身体を動かしたり、映像とともに音楽を五感でじっくり味わったりした。

**日程:**2019年1月19日  
**会場:**長久手市文化の家 音楽室  
**出演:**江頭摩耶(演奏) / 今井智景(企画・司会進行) / 山崎貴代(動きサポート)  
**映像:**稲田優太

連携プロジェクト



## 赤ちゃんとも踊ろう

5ページでもご紹介した「プロジェクト大山」が講師を務め、2017年度から続いている乳児を対象としたダンスワークショップ。今年度もママ編・パパ編に分けて開催。パパたちは力強い動きでも印象を残した。赤ちゃんたちは、徐々にリラックスした表情を見せ、笑顔も満開。合間のマッサージにも癒されていた。そして日常生活に追われがちな育児期間中のママとパパ自身がリフレッシュ!

**【ママ編】日程:**2018年8月17日～19日  
**【パパ編】日程:**2018年8月19日  
**会場:**愛知芸術文化センター アートスペースA  
**日程:**2018年11月25日  
**会場:**半田市福祉文化会館(雁宿ホール)  
**講師:**プロジェクト大山  
**共催:**半田市教育委員会

連携プロジェクト



## 託児サービス

愛知県芸術劇場の主催事業の多くでは、満1歳以上の未就学児を抱える鑑賞希望者のために託児サービス(有料・予約制)を実施。育児をしながらでも舞台芸術を楽しむ機会が得られるよう、積極的に取り組んでいる。



## 鑑賞サポート



## 触る舞台美術模型を使用した開演前舞台説明

視覚に障がいのある人が事前に舞台空間のイメージをつかめるよう、触っても良い舞台美術模型を制作。ストーリーや演出の説明も交えながら、具体的に作品を理解できるよう努めた。写真は演劇「寿歌」の模型。参加者は、無限を思わせる8の字の通路に触れたり、降りしきる雪に見立てた飾りから終幕を想像しては、作品の要素を手で読み取った。

**日程:**2018年6月16日  
**会場:**パティオ池鯉鮒(知上市文化会館)  
**主催:**一般財団法人ちりゅう芸術創造協会  
**協力:**愛知県芸術劇場



コミュニケーション支援ボード  
制作:公益財団法人名古屋文化振興事業団



## 日本語字幕

聴覚に障がいのある人に向けては、日本語字幕なども実施した。イスラエル・ガルバンによるフラメンコ公演「黄金時代」では赤外線補聴システムを使用。オペラ「バ스티アンとバスティエニス」は一般的なオペラ上演と同様、舞台奥に字幕を投影。一方の演劇公演「シティⅢ」では、場内最後列にタブレットを設置した客席を設け、セリフはもちろん効果音なども細かく表示した。

**対象公演:**イスラエル・ガルバン『黄金時代』  
**実施日:**2018年11月2日・3日  
**会場:**名古屋市芸術創造センター  
**対象公演:**第17回AAF戯曲賞受賞記念公演「シティⅢ」  
**実施日:**2018年10月27日  
**会場:**愛知県芸術劇場小ホール  
**対象公演:**モーツァルト作曲オペラ『バスティアンとバスティエニス』  
**実施日:**2018年11月16日・17日  
**会場:**愛知県芸術劇場小ホール



舞台奥のスクリーンに投影した字幕 撮影:羽鳥直志

## 開演前の公演説明会 点字プログラムの作成

愛知県芸術劇場では毎年恒例のコンサート「クリスマスはオルガンだ!」の公演の際、スクリーンを使って楽曲のタイトルを出したり、演奏者の手元や足元の映像を流す演出なども行なっている。また、一部の公演では視覚に障がいのある方には事前に公演説明会を開催。点字のプログラムを配布するなど、本番の雰囲気を感じていただけるよう配慮した。

**対象公演:**バレンタイン・オルガンコンサート～ダニエル・ザレツキー  
**日程:**2019年2月8日  
**会場:**愛知県芸術劇場コンサートホール

**鑑賞サポートの協力:**特定非営利活動法人名古屋難聴者・中途失聴者支援協会 / 社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連合会 / 社会福祉法人名古屋ライトハウス

## コミュニケーション支援ボード&筆談

聴覚に障害のある人とは、主な用件の表示された「コミュニケーション支援ボード」でのやり取りや、筆談対応も随時行なっている。また、支援ボードには日本語以外に英語・中国語・韓国語が表示され、外国人との会話にも利用可能だ。なお、専門家を招いたセミナーで視覚障がい者の誘導訓練も実施、常に対応できるよう努めている。

**対象公演:**愛知県芸術劇場のすべての主催事業



**芸** 術文化の普及啓発の有効な方法として、多くのワークショップを実施してきたが、あわせてその企画者・担い手を養成する事業も開催した。ワークショップを実施するファシリテーターや彼ら／彼女らと現場を繋ぐコーディネーターは、人と人を繋ぐ存在。多様な価値観の懸け橋として、劇場や教育現場などでの活躍が望まれている。「舞台芸術ワークショップのファシリテーター&コーディネーター人材養成講座」では、理論と実践を通じ、将来的にワークショップの開発・運営ができる人材育成を図った。今年度は、ワークショップコーディネーターとして全国各地でアーティストと地域を繋ぐ活動をしている吉野さつき、劇団山の手事情社の俳優・演出家である倉品淳子が講義。実践・交流の場として参加者に刺激やヒントを与えた。



舞台芸術人材養成ラボ普及啓発人材プログラム／アーティスト人材養成事業  
舞台芸術ワークショップのファシリテーター&コーディネーター人材養成講座～広場ラボ  
日程:2019年1月26日  
会場:愛知芸術文化センター アートスペースA  
講師:吉野さつき/倉品淳子

## ダイバーシティ Diversity

年齢・性別・経歴・国籍など、ダイバーシティは多様性に富んだ現代社会において様々な文化や価値観を背景に持つ人々が、芸術文化を通じてつながる

### 連携プロジェクト

#### 赤ちゃんと一緒にダンス

愛知県にはトヨタ自動車株式会社をはじめ、世界的企業が多く、日本語が母語ではない人々もたくさん働き、暮らしている。そこで、乳幼児と保護者を対象としたワークショップ「赤ちゃんとおどろう」の外国人向けバージョンを犬山市で実施。通訳があるため、参加者たちは安心して参加。ダンスを通して、言葉の垣根を超えた交流から喜びをシェアした。舞台

芸術やアートは、草の根的な国際交流にも貢献できる可能性を秘めている。

日程:2018年11月25日  
会場:楽田ふれあいセンター(犬山市)  
講師:プロジェクト大山  
主催:NPO法人シェイクハンス/愛知県  
共催:愛知県芸術劇場

#### 多言語のチラシ配布

愛知県芸術劇場では、一部公演で多言語に対応したチラシを配布している。英語チラシはもちろん、愛知にはブラジル出身の外国人が多いため、ポルトガル語版も作成。また、難しい日本語がわからない人のために「やさしい日本語チラシ」も用意している。日本で芸術文化には触れたいけれど、何がなわれているのかわからなかったという人たちに、まずは当劇場と活動内容を知ってもらう手掛かりを提供できた。

実施事業:愛知県芸術劇場ファミリープログラム2018/他



やさしい日本語チラシ

ポルトガル語チラシ

英語チラシ

## 愛知県芸術劇場 普及啓発事業 2019年度ラインナップ(予定)

★鑑賞&レビュー講座  
「観て、話して、書いてみる」  
舞台鑑賞者のための  
コミュニケーター養成に向けて  
4月21日(日)ほか

★舞台芸術ワークショップの  
ファシリテーター&コーディネーター  
人材養成講座  
アーティストと社会をつなぐ 広場ラボ  
～ワークショップづくり ことはじめ～  
5月25日(土)・26日(日)

★オルガン見学会  
8月29日(木)

★愛知県芸術劇場カフェトーク  
ゲスト×観客で考える舞台の楽しみ方  
9月頃

★第19回AAF戯曲賞 関連企画  
2020年1月

★エンゲキ・カフェ  
2020年1月頃 ほか

※各事業の詳細は、ウェブサイト、チラシ等で最新の  
情報をご確認ください。  
※やむを得ない事情により、内容等が変更になる場合  
があります。